

【22_139技術系メルマガ】やってはいけない『パターン認識』

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

今回は、ちょっと久々になりますテクニカル系の内容です。

『目線』の根拠や『セットアップ』の一環として、チャートパターン(三尊など)を使っている人は多いかと思いますが

このチャートパターンという代物、当然ですが万能ではありません。

といっても、こちらが使いどころを誤りさえしなければ、これほど頼りになる古典テクニカルもなかなか無いので

是非とも有効に活用したいものです。

今回は、これまでにメール等での質問のやり取りを見返して、よくありがちなミスイクを整理してみようと思います。

□
■ チャートパターンは、それが発生する『場所』が重要

例えば皆が良くチェックしている三尊。

これは、いわゆる『下落の兆候』として認識するチャートパターンですね。

しかし、サブタイトルにも書いたように

このようなパターンは『どこで出現したのか？』を確認する事が非常に重要なのです。

先日ツイートした内容だけでは、少々抽象度が高すぎると思いますが

▼ツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1526753705113989120?s=20&t=fX1TK6UsVZC4K4eamQFI6g>

ここに明記してある『前提となる環境』とパターンを組み合わせることで
パターンを根拠としたトレードの精度が向上します。

図を介して説明すると、イメージはこんな感じです。

▼三尊(下落パターン)が機能しやすい環境▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-05-17_003.png

このように、下落を示唆するチャートパターンの場合、『レジスタンスに対する反転』や
『サポートブレイク後のプルバック』において出現した時は
非常にエッジが効く(=優位性が高い)根拠となります。

一方で、サポート付近にプライスが近づいてきたという状況では、仮に三尊パターン(のように見える)形が出てきたとしても

それはただサポートライン際での揉み合いである可能性が高く、仮に三尊ネックブレイクを見込んでエントリーしたとしても

元より存在しているサポートラインに阻まれて、大きな反発上昇に巻き込まれる。。。

なんてことも起こり得るわけですね。

▼サポート際での下落パターンはあまり優位性が無い の図▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-05-17_002.png

このように、チャートパターンを見る時には

今このパターンが発生するのに『適した現在地であるか』を併せて評価する(=環境認識)ことで

より有効にパターンによるエントリーを使いこなせるようになるはずですので

上下の時間足の相関を意識しながら、分析を行うように意識してみてください。

